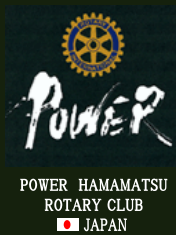


国際ロータリー第2620地区
静岡第5クラブ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

クルクルまわそうロータリー

RI 会長 ジェニファー・ジョーンズ/第 2620 地区ガバナー 浅原諒蔵 /会長 加藤ひとみ /幹事 高部光司
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第916回例会12月6日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：中野雄介 加藤威
- 点鐘：加藤ひとみ ■週報：鈴木一広
- ロータリーソング：「夢のみずうみ」(※音楽のみ)
- ビジター：小澤邦比呂 村田誠
- ゲスト：米山記念奨学生 陳俊達さん

出席報告/スマイル報告

会員数 69名(内 出席免除会員 1名)
出席数 54名 出席率 79.4%

スマイル提出者氏名掲載
坂神文仁さん

会長挨拶 中野 敬司 会員



おはようございます。

加藤会長より、コロナ禍の休会で会長あいさつが少なかったの
で、その分、挨拶させてあげると優しいお言葉をいただきました
で、ここに立つ羽目になりました。

今年の4月16日に、計画した20周年事業のすべてを無事終
える事ができ、これも高貝前会長をはじめ会員の皆さんの御協
力のおかげとっております。このような節目の事業という
と、私には20年前のクラブ設立前後に、秋山初代会長と浜松中ク
ラブの唐澤特別代表とのやり取りを思い出します。秋山さんと
唐澤さんとの間で、新クラブの運営を巡って意見の相違があり、
金山土州さんと森島さんが間に入って、大変ご苦労されていた
様子でした。また、チャーターナイトの実行委員長をされてい

た長谷川博久さんの奮闘ぶりなど、いずれもついこの間のように思えます。そして、このように役員の方々が
ご苦労されている頃、私は設立当初の例会が苦痛で、火曜日の朝がとてもしんどかったです。しかし、自分の仕
事とは繋がりのない人たちとの交流と、パワー浜松の規律がある中にも明るい雰囲気などがとても新鮮で、
徐々に例会が楽しみになり、奉仕についても皆と話すようになっていきました。唐澤特別代表は、出席なく
して親睦なし、親睦なくして奉仕なし。と、私たちの例会で、よく仰ってくれました。また、加藤会長は会
長所信のなかで、こう書いています。

「私たちのクラブの車輪を止めてはいけません。会員同士の交流の車輪を回し、奉仕活動の車輪を回し、パワ
ー浜松ロータリークラブの歴史を回していきましょう。」例会に出席し、親睦、奉仕活動の車輪をクルクル
まわして、あと7か月間、加藤会長を皆で盛り立てていただきたいと思います。よろしくお祈りします。

幹事報告 高部 光司 幹事

- ① 配布物の確認 「ロータリーの友」
- ② 退会者 ・山下俊彦さん(12月31日退会) ・Libby Joseph Matthewさん
- ③ 新クラブ発足に伴う移籍退会者の退会日 10月26日(新クラブ入会日)

委員会報告

■親睦小委員会 野口雅子

2022年12月10日 クリスマス&忘年会を開催します。青山さんのサ
ポートのおかげで形になってまいりました。多くの方より景品を提供し
て頂き感謝します。親睦一同、楽しい一日を過ごせるよう企画していま
すのでぜひお越しください。



■Dグループ「少子化・子育て」森俊彦 会員

背景 現代は日本中で少子化が進んでいる。また子育てが難しい状況である。ロータリーとして何かできないかを探る。

問題点 大きな問題で解決が難しい。

取り組み

- 1.高校生世代を対象に、婦人科の医師による出前教室のようなものをお願いし、出産に対しての準備について教えてもらう。
- 2.結婚対象の年代において、お見合い会を行う。現状結婚したカップルの40%がマッチングアプリとゆう情報もあり、結婚報告でもマッチングアプリと宣言しているカップルも多くみられる。
- 3.子育て世代に対しては、クラブとしてお金を使える状態を作る。基金を作るなどして子ども給食に弁当を配ったような活動の継続性が必要と思われる。番外の話として、男性の生殖能力の低下が心配されているため、禪の周知・普及活動を進める。



■Eグループ「マイノリティ・ジェンダー」後藤達朗 会員

マイノリティは少数者の意味で、社会の多数を占めるマジョリティから見ると相対的に異質であると捉えられやすく、そのために差別や迫害、あるいは日常生活を送る上での不平等などが生じやすいとされています。マイノリティは必ずしも数で少ないグループを意味するわけではなく、例えば組織の管理職がほとんど男性である社会では、女性はマイノリティと考えられるため、女性の社会進出の問題も同じカテゴリーの問題と考えられます。そのほかマイノリティとされる人たちには、障害のある方、外国籍の方、性的少数者などがあります。こうした人たちが差別や迫害、不平等な扱いを受けないようにするために、パワーとしてどのような取り組みができるかを考えましたが、なかなか難しい問題だと感じました。

差別や迫害が起こる原因の一つには、マジョリティが、マイノリティのおかれた立場を知らないこと、理解できないことがあると思います。そうしたことから、マイノリティの方々の話を聞き、マイノリティの方々の置かれた状況を理解することが第1歩になるのではと考えました。これまでに、パワーでも、障害者に対する支援を考える中で、障害をもった当事者、特に視覚障害者の方やその支援者の方をお招きして話を聞く機会がありました。こうした機会を通じて、障害のある方のおかれた立場を知ることができたと思います。

同様に、様々なカテゴリーのマイノリティの方々やその支援者から話を聞いて、マイノリティの置かれた状況を理解することがスタートしたいと思います。そしてその理解を前提に、求められていることや、私たちにできることを考えていければと思います。こうした取り組みを通じて、マイノリティの方々を含め、すべての人々が相互に人格と個性を尊重し、支え合って多様なあり方を相互に認めあえる「共生社会」の実現に貢献したいと考えています。



■Fグループ「芸術」 松本由紀彦 会員 鶴信雄 会員

—ミライの吹奏楽部を応援する—

令和4年に学校の文化部活動の地域移行に関する検討会議がありました。文化部活動の意義は、文化芸術に親しむ機会を確保し、部活動を通して人間関係を構築することなどが挙げられます。しかし、生徒数の減少により、持続可能性が危ぶまれており、学校教師にも大きな負担となっています。文化芸術の役割は、豊かな人間性を涵養し、想像力や感性を育むことであり、これからの新しい文化部活動は学校だけにとどまらず、地域全体で芸術に親しむ環境を整備していくことが求められています。現在、文化庁の指導で、地域文化倶楽部の創設に向けた実践研究が行われており、来年度から学校部活動が段階的に地域移行する取り組みが始まる予定になっています。

文化部活動の中で、吹奏楽部の課題について取り上げます。吹奏楽部は、運動部も含めた中学生の部活動の中で所属する人数が10.4%を占めており最も多いです。また、練習時間も長時間におよび、土曜練習は約半数が5時間を超えているとの調査もある。吹奏楽部が文化部の中の運動部と呼ばれるゆえんでもあります。地域部活動推進事業では、現在32の自治体に委託され、人材や活動場所の確保等課題の解決を目指す実践研究が実施されているが、その中で8割以上が吹奏楽部について取り組みを実施しています。環境作りの方向性としては、来年度から休日の部活動を段階的に地域に移行し、その進捗状況によ



り平日も地域移行していく。その過程の中で、地域の音楽団体と学校の連携、協力を推進し、生徒の活動機会を充実させることであります。地域文化倶楽部となる吹奏楽部の問題点は、場所の確保が難しいこと、学校以外では防音や遮音の問題、学校内ではセキュリティーなど。指導者の確保練習の見守りや会計管理、練習場所の予約といった役割を担う父母会の設置大型楽器や打楽器の購入、保管、補修楽譜の購入（著作権の問題？）現在、吹奏楽コンクールでは地域の音楽団体は一般の部に振り分けられるため、学生主体団体であれば、学校の部にエントリーできるようにルールを改定することです。

課題として、指導や引率を担う人材の確保、他校との合同部活動の推進、生徒・指導者間のコミュニケーションを手助けとなる通信情報技術などがあり、これらを応援できないでしょうか？ 他の課題として、困窮家庭への支援、楽器の補償となる保険、学校施設活用に係る協議会の設置とルール策定、地域文化倶楽部での活動も学生の成績として評価される仕組み作り、プロの吹奏楽団のジュニアクラブ創設などがあります。

■Gグループ「ひきこもり・いじめ等」寺田洋平 会員

ひきこもりの定義は、様々な要因の結果として、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出はしてもよい)を指す現象概念であります。内閣府調査による全国のひきこもりの人数は若年層の15~39歳が51千人、中高年40~64歳が61万3千人(7割以上が男性)。2つを合わせると100万人以上になります。

浜松市のひきこもり支援体制の現状については、浜松市精神保健福祉センターが平成19年4月に開設、そのあとひきこもりに特化した浜松市ひきこもり地域支援センターが平成21年7月に開設しました。ひきこもり支援センターへの相談件数は増加傾向にあり平成30年度で約5500件ありました。

ひきこもり・いじめの原因は精神的な疾患や傷つき体験など様々で一つに特定できない場合が多くあることが問題です。当クラブとしての取り組みは、まずひきこもり支援活動を行っている方々に卓話をしてもらい、多くの人に「ひきこもり」を理解してもらうことから始める事が大事だと思います。



■Hグループ「環境・エネルギー・食糧」坂井光蔵 会員

ーパワー浜松ロータリークラブとしての取り組みー街中(アクト、浜松駅周辺)のゴミ拾い

一般道にはタバコの吸殻やビニール袋等のプラスチック製品が多く捨てられている現状で、これらが川や海に流れでた時にマイクロプラスチック等の環境問題が生じる状況である事から、パワー浜松 RC として簡単な事業ですがとても大事な事だと考えゴミ拾いと致しました。あえて街中の人通りが多い場所で活動する事で市民の環境認識を高めることもできると考えました。

又、お揃いのブルゾンで行えばパワー浜松 RC の PR もできます。その他食糧・エネルギーについて、肉の代替食品として昆虫食の啓蒙を協議致しました。

肉の代替食品が浸透すれば畜産業界から出る CO2 削減に繋がると考えましたが、昆虫食を扱っているお店等が無くクラブとして取り扱える内容では無いと判断致しました。



■Iグループ「国際化」鈴木亮 会員

地方ほど海外との交流や経験の機会が少なくなってしまうと思われ、地域(地方)から始める国際化をテーマとしました。

日本人の語学力の低さや、日本を紹介するためにそもそも日本文化を理解できているのかといった問題点を鑑みて、ロータリーとして自国(地域)の歴史文化の研鑽を深め、語学力、コミュニケーション力などの発信スキルを高め、尚且つ外国人に対する教育の場を整える必要があります。

